

川崎の男女共同社会を **すすめる会通信** No.171

●連絡先 藤井光子 hymico@me.com ☎&FAX 044-944-7872 ●発行日2015年10月1日
〒214-0003 川崎市多摩区菅稲田堤3-8-2-503 ●HP <http://web-k2.jp/ssk1985/>

紹介！ G20働く女性のアンケート

最重要は「家庭との両立」

ロイター通信が発表した主要20カ国（G20諸国）の働く女性に対して実施したアンケート結果を紹介します。

「職場で女性が直面する最も重要な問題」として「仕事と家庭の両立」をあげたのが44%でトップ。「男性と同等の労働で同一賃金を受けること」が39%で続きました。

▶「仕事と家庭の両立」が最も重要だとした人の国別割合

1位 ロシア（60%）

インド、韓国、中国、日本などアジア諸国で顕著

▶全体の47%の女性が、キャリアを損なうことなく家庭を持つ自信があると回答。

1位 ブラジル（74%）

ブラジルでは原職復帰を保障された上で、4～6ヶ月の出産休暇が認められていること。両親や親戚などの支援を受けやすい環境があると指摘しています。

2位 インドネシア・南アフリカ・トルコ（63%）

下位 イタリア・英国・ドイツ

日本（17%）最下位

▶男女間の賃金格差については、10人に4人が重要な問題と捉えています。

米国、英国、フランス、カナダ、オーストラリア、ブラジルの女性は、労働問題の最重要課題としています。

▶年齢とともに賃金格差は広がるとし、35才未満の女性の43%が「（男性と）同一賃金を得ている」と回答したのに対し、50～64才では34%でした。

▶就職や昇進で差別があると感じている女性は、

サウジアラビア（61%） 韓国（58%）

イタリア（57%） フランス・インドネシア（55%）

日本（38%）

【調査 2015年7～8月 20諸国9501人の働く女性対象】

みんなで話そう！
考えましょう
あふれるハラスメント
の背景にあること…



今週です！ 第2回学習会

なくしたい！日常に潜む

ハラスメント

11月7日

(土)

13:30~16:00

すくらむ21

講師

丹羽雅代さん

大学でのハラスメントの相談員や、wam女たちの戦争と平和資料館など、その他ジェンダー平等のために活躍！

私が気になること…

あなたは…？ 〈投稿 Shimada Etsuko〉

(1) テレビのコマーシャル、番組内容

* ポルノ、エロを感じるので不快。

不必要な肌の露出、不必要な女らしい（いやらしい）体のラインの強調。消費者は女性なのに男性目線。朝の情報番組でヨガのコーナー（現在は無い）。インストラクターと番組アナウンサーがポーズをとる。運動やウェアの性質上、ポーズをとることにより体の線が強調され、いやらしく感じた。女性がかawaiiそうだった。番組に出演している女性たちは全員、膝上丈のミニスカートをはかせられている。番組づくりの意識が男性目線。

* 性別の役割分担、ステレオタイプの表現、押しつけを感じるので不快。

食品、家、テーマパークのコマーシャル。「お母さん」らしき専業主婦っぽい女性がエプロンで料理づくり。娘がお母さんと一緒にお料理。働く女性の職業がアパレル、ファッション業界、ライター、編集者であることがステレオタイプ過ぎる。

(2) アニメ、ゲームのキャラクター

現実ではあり得ないプロポーション、露出の多いコスチューム。幼な顔でありながら、現実ではあり得ないグラマーな肉体に男性の願望を感じ、嫌悪感を覚える。日本人がクールジャパンと喜んでいる日本のアニメは児童ポルノの危険性をはらんでいるものがある、と欧米人に指摘されている。

(3) JK ビジネス

女子高生を性産業で食べ物にしている。なぜ女子高生なのだろう。適度に性的だから？

(4) Facebook 的な風潮

「ハッピー」「幸せ」「人生が充実」でなければならない？ 育児休業明けのアパレル業界で働く「きれいな上司っぽい」「ママ」さん。仕事の帰りに保育園に子どもをお迎え、子どもを抱きしめる。家族がいることが良いこと。仲間とレジャー、イベントでワイワイ。仲間がいることが良いこと。それらを押し付けている。Facebook はネガティブなことを投稿しないというルールがあるらしい。

「ハッピー」な投稿でいかに自分が充実した人生を過ごしているかをアピールするツールになっている。

Facebook を日常的に使う人々は、Facebook に投稿できるようなネタを常日頃から探しているように感じる。これはネタになるかな？と意識しながら日々を送っているようだ。「リア充」であるかないかが人間の評価になってしまい「非リア充」な人には精神衛生上、良くない。（「リア充」はネット用語）

(5) 子育てママ応援の同調圧力

赤ちゃんを抱いているお母さんに遭遇したら赤ちゃんを見てにっこり笑わなければならない。そうしなければ非国民扱い（のように感じる…）。

(6) なでしこジャパン

大和撫子……おとなしく、自分の意見を言わずに男に従属する、我慢強さのイメージを押し付けている。

(7) サムライ・ジャパン

「日本」の「男」のイメージを押し付けている。何がサムライだ。何をかっこつけているのか。

(8) サクラ

サクラがイメージする、散り方が潔い。それは死を美化している。刹那的な生き方につながりそう。

(9) 男らしさ、女らしさ、女子力

何を今さら男女を分けているのだろう。時代遅れではないのか。むしろ「らしさ」を強調するようになっている。料理上手は女子力が高いではなく「生活力が高い」と私は考えたい。

(10) 新聞記事

氏名には必ず年齢を表記。人物紹介欄には○児の母、父 子どものいる人はいいい人とイメージアップ。

(11) 「ハラスメント」という言葉の氾濫

現在「ハラスメント」が一人歩き。

「セクハラ」は行為に名称ができ定義づけられたため、効果的な使われ方をしたと思っているが、「オワハラ」「エイハラ」……など、4文字のカタカナに略されると嫌がらせ行為を軽く感じさせられてしまう。

(12) 女性のヒエラルキー

最上位→既婚・子どもあり・高収入の夫・生活費のためでない仕事・自宅でサロンを開くシロガネーゼ。

女性は未婚、既婚、子あり、なし、夫の収入などの要因で格付けされてしまう。

……気にしなければいい、でも、人間はそんなに強くない。他者からの評価でしか自分を評価できない。まだまだ沢山ありますが、あなたはどう思いますか？

またか！閣僚によるハラスメント発言

くりかえされる閣僚のハラスメント発言 …、これらは「性別役割の固定化」に基づく根強い意識が、自由民主党の中にあると考えられます。菅房長官発言は、個人の上に国家を置き、国民は国に貢献するのが当然という戦前の価値観を押し付けるものではないでしょうか。主権者国民の基本的な人権を理解できない人物はその閣僚にふさわしくありません。川崎の男女共同社会をすすめる会は、幹事会の合意で以下の抗議声明を出しました。(2007年の柳沢発言も抗議声明をだしました。)

菅官房長官の「たくさん産んで国家に貢献して」の発言に対する 抗議声明

2015年10月2日

川崎の男女共同社会をすすめる会 幹事会

菅義偉官房長官が9月29日のフジテレビの番組で、俳優の福山雅治さんと吹石一恵さんの結婚についてのコメントを求められた際に、「(彼らの)結婚を機に、ママさんたちが『一緒に子どもを産みたい』という形で国家に貢献してくれればいいと思う、たくさん産んでください」と発言したことに抗議します。

その後の記者会見で取り繕っても、おめでた話に日ごろからの考えが思わず口をついて出たのでしょう。国民よりも国家優先の考え方を常日頃からしているからに他なりません。

結婚するのも出産するのも個人の自由、基本的人権に関する選択権の問題です。菅官房長官の発言は、戦前にかかげられたスローガン「産めよ殖やせよ」を想起させました。と同時に、第一次安倍内閣の柳沢伯夫厚生労働大臣が女性のことを「(子どもを)産む機械。産む役目の人が、がんばってもらえない」と自民党の集会で発言したことをも想起させられました。時代錯誤も甚だしいと言わざるをえません。

現在、女性労働者の半分以上が非正規雇用で、パワハラ・セクハラ・マタハラにさらされ、妊娠解雇・出産解雇などの不法労働行為も裁判に訴えられています。働きながら頑張っても日本の子育て環境は厳しく、職場は長時間労働が蔓延し、保育所不足に育児支援も不十分です。このような状況は、女性の人権を尊重する考え方が、現安倍政権にはないことを裏付けています。

女性の権利は人権であると第4回世界女性会議北京会議(1995)で世界的に確認されました。女性版ダボス会議を開催し、「女性が輝く社会」と見かけの女性尊重ではなく、日本社会で真に女性を尊重することを求めます。

また、国民の半数以上を占める女性を尊重できない人物は、官房長官の任にふさわしくありません。抗議とともに辞任を求めます。

2015年11月女性ニュース

・中学生の主張 in かながわ

10月27日に県主催・神奈川新聞社等の後援する上記の会が横浜の県立青少年センターで開かれ、川崎市立西中原中学3年生の館田海光さんが最優秀賞に輝いた。優秀賞は6人です。

館田さんは「挫折が私に教えてくれたこと」と題してスピーチをした。館田さんは11月に東京で開かれる「第37回少年の主張全国大会」の県代表に推薦された。

・14年度女性登用助成 申請なし

厚生労働省の2014年度事業で500社を見込んでいた、企業が女性の管理職登用などの数値目標を設定し、達成した場合に助成金を支給する制度に1件も申請が無かったことが10月27日に厚生労働省への取材でわかった。事業は「ポジティブ・アクション能力UP助成金」支給額は中小企業30万円、大企業が15万円で、1企業1回限りの受給としていた。支給条件は、①女性の職域拡大や管理職登用などの数値目標設定 ②管理職となるのに必要なスキルを学ばせる研修を30時間以上実施 ③数値目標のうち1つを半年後から3年以内に達成—など。目標を厚労省のウェブサイトで公表することをもともとめていた。

大企業などに数値目標設定を義務付ける女性活躍推進法施行を来年4月に控え、本年度から要件を1部緩和し、助成額も増やすことを決めた。10月以降に新たな申請を受付ける。

・第3次安倍改造内閣で女性1減

内閣改造人事で、19人の閣僚の内10人を交代させ、女性は1減の3人になった。初入閣は9人、新設の1億総活躍担当相

に加藤勝信官房副長官(59)を充て拉致担当相を兼務させた。国家公安委員長兼行革担当相は河野太郎(52)、農相に森山裕(70)、文部科学相に馳浩(54)、法相に岩城光英(65)、復興相に高木毅(59)、経済産業相に林幹雄(68)、国交相には公明党の石井啓一(57)、女性閣僚は、続投は高市早苗総務相(54)、環境相に丸川珠代(44)、沖縄北方担当相に島尻安伊子(50)が就任した。

・ノーベル文学賞 ベラルーシの作家に10月8日、2015年のノーベル文学賞をベラルーシの作家でジャーナリストのズベトラナ・アレクシエービッチ(67)に授与とスウェーデン・アカデミーが発表した。

授賞理由で彼女のノンフィクション作品『チェルノブイリの祈り』などの証言集について「苦しみと勇気の記念碑」だと讃えた。女性の同賞受賞者は14人目。1948年ウクライナ生まれ。ベラルーシ人の父とウクライナ人の母を持ち、ベラルーシで育った。国際的な文学賞も多数受賞している。

・障害者競泳に成田真由美さん復帰

7年ぶりに障害者競泳女子に成田真由美さんが復帰し、来年のリオデジャネイロ・パラリンピックを目指す。2004年アテネ大会まで金メダル15個を獲得したが、08年の北京大会後は右ひじと股関節の手術を繰り返した。障害クラスの変更もきっかけになり第1線を退いた。20年の東京開催が決まり、国内で障害者スポーツを協議として広く認知させられる好機が訪れ、広告塔の役割も果たせると思い、昨年11月から練習を再開し、9月のジャパンパラ大会に出場、100m自由形・100m平泳ぎの2種目を制覇した。